

「このままでは大切なまちの伝統や地域資源が失われてしまう!! 何とかしなければ…」7年前、一人の町民が立ち上がりました。その思いは、賛同する仲間たちとともに、着実な活動となり、成果が見えてきました。

宮城県柴田町は歴史と文化の町です。しかし、その史跡や伝統文化は継承者の高齢化などにより、いつしか時間とともに多くが失われつつあり、忘れられようとしています。何とか後世へ引き継いでいきたいとリーダーの豊川光雄が平成25年10月に行動を起こしました。

町の「まちづくり提案制度」へ「しばた100選の選定」を提案し、採択されました。その後、公募で集まった7名のしばた100選制作チームと12名の選考委員会メンバー、そして町との協働により制作が始まりました。

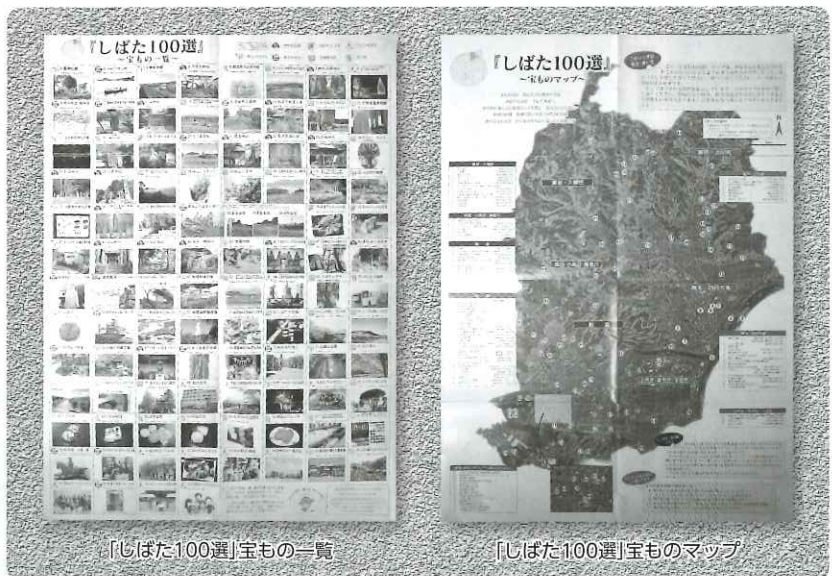
「あなたの地域の自慢を教えてください」と町民から募集し、855点もの応募があり、平成28年3月、「しばた100選」を発行しました。コンセプトは「伝えたい・残したい・自慢したい、しばたの宝もの」。「しばた100選」マップは、町内全戸に配布しました。

「しばた100選」認定は町の歴史や文化だけではなく、美しい景観、親しまれている食べ物など多岐にわたります。田んぼから望む壮大な風景や、みんなが大好きなコロッケ、いつしか人々の足が遠のいた小さな神社などもあります。どんなに思いを込

まちむら発見②

伝えたい・残したい・ 自慢したい、しばたの宝もの

宮城県柴田町 しばた100選活用チーム



『しばた100選』宝もの一覧

『しばた100選』宝ものマップ

めた冊子を発行し、認定箇所へ桃太郎旗を立てても、いつしか時間とともに忘れられてしまうという危惧と、まちの宝ものをみんなの宝ものにしていくため、平成28年8月「しばた100選活用チーム」を任意団体として立ち上げました。

伝え、残していくために大切なことは、絶え間なく発信し続けることと「みんながまちの地域資源を



紙しばい「六兵衛さん」上演



「しばた100選を見てみよう」バスツアー

知ること」であると考えます。
 チームの活動は大きく3つあります。1つ目は年に3回のバスツアー「しばた100選を見てみよう！」です。小学校の遠足のようなしおりや地域資源の詳しい資料を作成し、ガイドをしながら皆さまを案内します。まちのことをこんなに知らなかったと驚き、知ったことを喜んでくれる声が多く寄せられます。まちに興味を持つ人が増えていくだけではなく、訪れた先の皆さんにも歓迎していただき、地域資源への関心が高まっていくことを実感します。
 2つ目は、紙しばいの作成です。「しばた100選」には、しばたの民話がいくつか選ばれています。その中には、地域の小学校で、代々カンタータとして歌い継がれてきたものもありましたが、近年途絶えてしまいました。民話や伝説には地域の人々が大切にしてきた思いがあり、地域の名前の由来などが



しばた100選ロゴマーク

町の形をしたヘタと、桜型地図ピンをつけた柴田特産の「ゆず」がモチーフです

潜んでいたりします。みんなが気軽に地域のことを学び、故郷を愛する心につながることを願い紙しばいを作成し、貸出しをしています。また、副教材として活用できるように、紙しばいをDVDにして、町内の学校や関連施設へ配っています。

3つ目は、活動状況の報告です。活動を広く知っていたくために、A1サイズの用紙にまとめ、生涯学習センター、公民館などの町施設へ掲示し、年に3回程度更新しています。また、より詳細な情報を載せた活動記録ファイルも公開しています。

「しばた100選を見てみよう！」は、参加者募集受付の開始から、毎回10分以内に定員に達するほど大人気になりました。紙しばいの貸し出しは、口コミで広がりを見せています。町内の小学校では「しばた100選」の中から自分たちの自慢を探し歩く授業が生まれ、柴田町PRビデオ作製に取り組んでいる学校もあります。町内の様々な団体で「しばた100選」を使った事業が実施されており、町内へ新しく赴任する先生方には「しばた100選」を見て歩く研修が組まれるようになりました。また、柴田町で撮影支援した「SHIBATA LOCATION GUIDE」は「しばた100選」の中から撮影ポイントを選んでいきます。「伝えたい・残したい・自慢したい、しばたの宝もの」はみんなの宝ものになってきています。

(しばた100選活用チーム・庶務 阿部有子)